

(4)スタッフより

共に過ごす大切さ

企画指導専門職付 反町 峻

事前キャンプ1泊2日、本キャンプ7泊8日、新型コロナウイルスによる影響等、これまでに経験したことのない状況の中、17名の子供たちと野外炊事や登山といった様々なプログラムを体験することで、参加者同士の協力の大切さ、やり抜く力を見せつけられ、改めて子供たちの持っている可能性、成長を実感させられました。参加者がこの限界突破キャンプのねらいに迫り充実した表情を浮かべながら無事終了できました。ご協力いただいた関係各位、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

感謝を忘れずに

企画指導専門職 小林 大輔

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を危ぶまれましたが関係各所・各家庭のご協力により無事令和3年度限界突破キャンプを開催することができました。子供たちにとって、1週間以上も家庭を離れ、仲間たちと過ごした日々は何事にも代えられない貴重な経験になるとともに、普段いかに家族に支えられて生活を送ることができていたことが実感できたのではないのでしょうか？限界突破キャンプに参加できた「感謝の気持ち」を忘れずに、家庭・学校生活での活躍を期待しています。

他者とのかわりから

文教大学 郷原 直也

全日程を通して、子供たちは何を求めるのか、学生ボランティアとして自分には何ができるのか、考えない時間は無いとても濃密な時間でした。子供たちは活動の中で確実に変化していきます。異年齢の他者とのかわりは新たな刺激となり、友人の素敵な言動をロールモデルに真似る姿も見られました。これは私達ボランティアにも同じことが言えます。ボランティア仲間や職員の方々とかかわることで、新たな知見を獲得できた実感があります。限界突破キャンプに携われたこと、そこでの全ての出会いに感謝しています。

みんなの言葉に救われました

東京家政大学 都築 舞衣

長期間一緒に子供たちと活動していると助け合う場面が多くありました。子供たちは、そのたびに「ありがとう」と言い、友達が辛そうな時は「がんばれ」と声をかけていました。このたった一言によって背中を押された子は多くいると思います。私自身、子供たちとスタッフの言葉にたくさんパワーをもらいました。仲間からの心のこもった言葉が一番心に響くということを実感し、言葉を口にすることが大切であることを改めて感じました。

子供たちに体験を

事業推進係 成清 裕史

感染症を考慮して2年ぶりに開催することができた限界突破キャンプ。目的を共有して、1つのことを成し遂げることを大変さを再認識しました。今回はコロナ禍での開催による感染症対策も配慮する必要があり、安心・安全を守るためにスタッフ間で何度も協議しました。「コロナ禍でも子供たちに体験活動の機会を」という思いで、かかわる全ての人の協力があったからこそ無事実現できた限界突破キャンプだったと実感しています。今後も安心・安全な良いキャンプを提供できるよう努めていきます。

スタッフとして感じたこと

総務係長 吉田 真祐

施設に勤務して3年、今回初めてサポートスタッフとして教育事業にかかわらせていただきました。キャンプ中は、主に登山に同行し、子供たちが他者とのかわりの中で、楽しいことも苦しいことも経験し、大きく成長していく姿を間近に見ることができました。また、参加した子供たちだけでなく、ボランティアの学生スタッフも含め、携わった多くの人にとってかけがえのない経験と学びがあったことと思います。このような貴重な学びの場に、微力ながら携われたことをうれしく思います。

毎日が学び

東京家政大学 西林 菜つ子

限界突破キャンプは、私にとっても大きな挑戦でした。本キャンプ中は、大体が複雑で「答えのない問題」が溢れており、学校で学ぶ「知識」だけでは到底解決できるものではないことを痛感しました。そのような問題に対しても、子供たちと話し合い、職員さんと情報共有することにより、解決に向かうことが出来ることを実感しました。7泊8日、子供たちと一緒に活動する中で、子供たちから学ぶことが多くあり、大変貴重な経験になりました。

限界突破キャンプを終えて

学生サポーター 細田 希星

限界突破キャンプに参加して、最終日、私はこのキャンプに携わることが出来て良かったと心から思いました。ですが、この気持ちに至るまでには様々な気持ちの葛藤がありました。8日間、私自身が最後まで頑張れるのかという大きな不安もありました。ですが、子供たちの力強い笑顔と、共に支え合ったボランティアの皆のおかげで、素敵な8日間とかけがえのない思い出ができました。職員さん、ボランティア、そして子供たち、限界突破キャンプにかかわったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。

子供たちの楽しそうな姿が印象的でした

管理係 朝日 麻理奈

入浴時の送迎や登山時の弁当配送などをお手伝いさせていただきました。子供たちとのかわりは少しだけではありませんでしたが、大半の子供たちは、登山後にもかかわらず元気いっぱいにはしゃいでおり、楽しそうな姿が印象的でした。中には、体調不良により途中で登山を断念しなければならない子もいましたが、登山続行の可否を自分で判断しており、感心させられました。宿泊体験の実施が難しい状況の中、無事に終了し、子供たちを笑顔で見送ることができて良かったです。

安全管理についてのポイント

- ① 複数のコースを設定し、実地踏査を行ったうえで、プログラムを構成。
- ② 参加するスタッフとボランティアで事前に登山の注意点や、野外炊事での注意点の研修を実施。
- ③ 参加者とスタッフ全員で、事前キャンプ、本キャンプの登山前にコース、注意点を確認する講義を実施。
- ④ 実施体制や緊急の対応(フローチャートの設定、エスケープコースの設定)をし、スタッフの動きが共有されるようにした。

自分を知ることができた限界突破キャンプ

文教大学 若井 悠貴

私が限界突破キャンプに参加して良かったと思う点の一つとして、子供とのかわり、ボランティア同士のかかわり、職員さんとのかわりを通して自分のことを知ることができたことが挙げられます。今まで得意だと思っていたことが苦手だったり、逆に苦手だと思っていたことが得意だったり、大学の授業やアルバイトでは認識できない自分の新たな一面をたくさん発見しました。この経験を普段の生活、進路に活かしていきたいです。

人と想いと限界突破

群馬県立沼田高校 北山 桂月

私は前回キャンプまでは参加者として、今年度からはボランティアメンバーとして事業運営に以前とは異なる視点からかかわらせていただきました。子供たちの想いや考えていること、スタッフの人達が子供たちをサポートするために様々な工夫をしていた運営のこと、ひとつのイベントの中にこれほどまでに多くの人の想いが込められているのかということに深く実感しました。これから多くの人とかかわる機会が増えて行く中でも、お互いの想いを伝え合い、1つのゴールに向かって高めあっていくことが大切だと強く感じました。